

第5回（2024年度）日本セラミックス協会功績大賞受賞者

こめや かつとし
米屋 勝利 氏



米屋勝利氏は、主にエンジニアリングセラミックスの研究開発、および、優れた特性を活かした応用展開を通じて、セラミックス科学と工学の発展に多大な貢献をした。中でも窒化ケイ素や窒化アルミニウムに代表される窒化物セラミックスのパイオニアであり、その黎明期において希土類酸化物とアルミナといった今日の窒化ケイ素の最もスタンダードな焼結助剤を見だし、緻密で高強度・高靱性の窒化ケイ素セラミックスを実現するなど、特に構造物セラミックスの分野の発展と基礎化学の構築に大きく貢献した。さらに、開発した窒化ケイ素セラミックスの高い機械的信頼性を活かし、世界にさきがけてセラミックス軸受を軸受メーカーと共に開発するなど、セラミックスのエンジニアリング応用の面でも多大な功績を挙げた。これらの業績に対して、窯業協会進歩賞、日本セラミックス協会学術賞、米国セラミック学会 Richard M. Fulrath Award、米国セラミック学会フェロー Bridge Building Award、日本セラミックス協会名誉会員等を受賞している。

また、学術審議会ナノテクノロジー・材料委員会委員、日本材料科学界評議員・理事、日本ファインセラミックス協会共通基盤技術委員会委員長、ISO/TC206 国内業務委員会委員長等を務めるとともに、ISO/TC206 WG12 コンビーナや第一回および第二回サイアロンおよび非酸化物に関する国際会議組織委員長等を通じて、セラミックス分野の発展について国際的にも多大な功績を残している。

本協会運営に関しては、10年間にわたって理事を務めると共に、教育委員会委員長、セラミックス誌編集委員会委員長等を務め、協会の発展に大きく貢献した。

以上、同氏は本会における活動を通じてセラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げるとともに、長年にわたって日本セラミックス協会の活動に極めて多大な貢献をされた。よって、日本セラミックス協会功績大賞として表彰する。

略 歴 1962年3月横浜国立大学電気化学科卒業、同年4月東京芝浦電気(株)(現(株)東芝)入社、中央研究所配属、1975年4月同社主任研究員、1987年4月同社新素材応用研究所部長／主幹、1989年3月(株)東芝退社、同年4月横浜国立大学工学部物質工学科助教授、1991年11月同教授、2000年大学院環境情報研究院教授（2002年4月～2004年3月評議員、2002年4月～2004年3月ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー所長）、2004年3月横浜国立大学定年退官、名誉教授、2004年7月～2009年3月特任教授。他学協会で理事、各種委員、省庁、政府機関での専門委員、推進委員、評価委員などを歴任。1977年9月工学博士（東京工業大学）。

受賞歴 1972年窯業協会進歩賞、1979年科学技術庁研究功績者表彰、1983年 Am. Ceram. Soc., The Richard M. Fulrath Award、1988年日本ファインセラミックス協会技術振興賞、1991年日本セラミックス協会創立100周年記念技術功労賞、1996年日本セラミックス協会学術賞、2006年 Am. Ceram. Soc., Fellow、2007年同学会 ECD Bridge Building Award、2012年同学会 John Jeppson Award 他。

協会歴 1981～1982年度理事（窯業教育担当）、1985～1986年度理事（編集担当）、1989～1990年度、1992年度理事（教育）、1995～1996年度理事（セラミックス誌）、2000～2001年度理事、2014年度～名誉会員